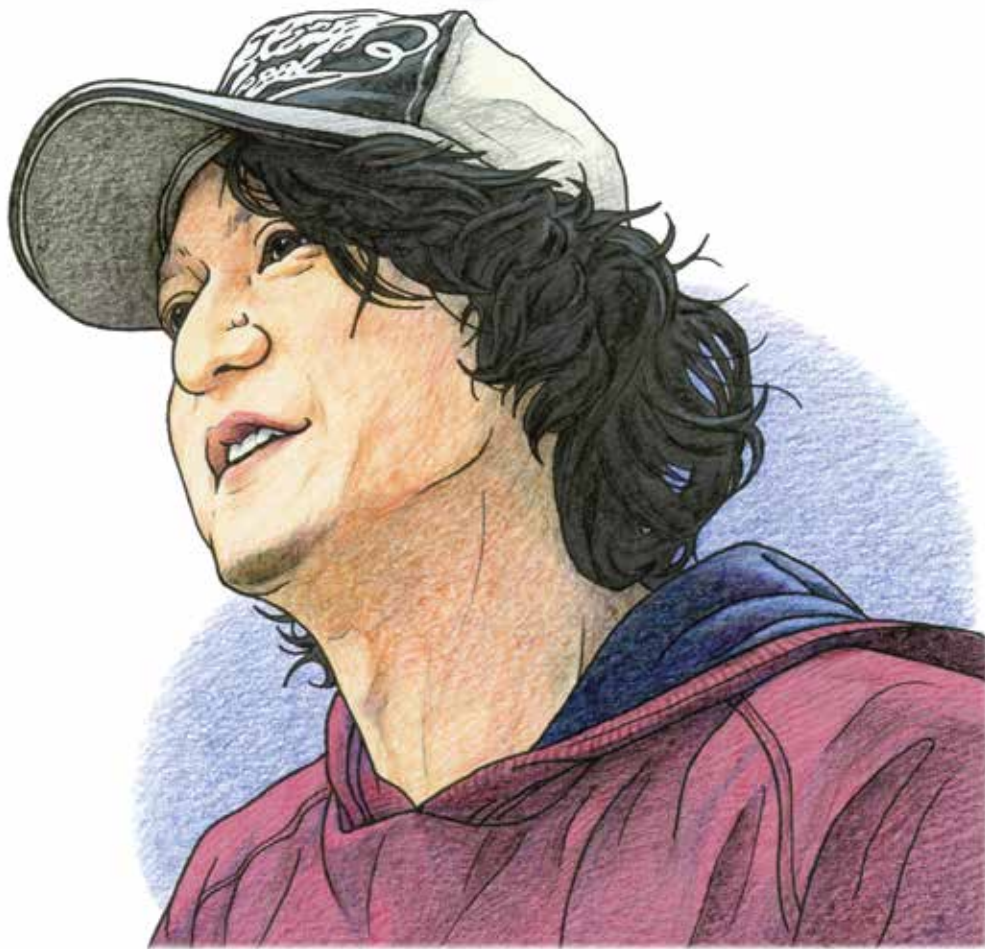




発行 / (公財) 広島市文化財団 文化事業部 事業課
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMSアステールプラザ内
TEL082-244-0750 FAX082-245-0246
Eメール bunka@cf.city.hiroshima.jp
ホームページ http://www.cf.city.hiroshima.jp/bunka/
編集・印刷 / 大村印刷株式会社
表紙イラスト / 田中 聡

to you



時川 英之さん(ときがわ・ひでゆき) 映像作家

1972年11月3日広島生まれ。明治大学、バンクーバー・フィルムスクール卒業後、ディスカバーチャンネル・アジア(シンガポール)、ウォルト・ディズニー・テレビジョン(東京)で多くの番組にプロデューサー/ディレクターとして携わる。その後、映画監督の岩井俊二氏に師事。映画を中心に、ドキュメンタリー、TVCM、ミュージックビデオなど幅広いジャンルで、自信の国際色豊かな経験からユニークな作品を作り出している。2009年広島に拠点を移し、TimeRiver Pictures株式会社を設立。広島で記録的ロングランとなり全国公開に至った初監督映画「ラジオの恋」(14年)、福山の老舗映画館の閉館をきっかけに生まれた映画「シネマの天使」(15年)、広島カープの珠玉秘話を映像化した「鯉のはなシアター」(18年)に続き、伝説のストリップ劇場・広島第一劇場を舞台にした最新作「彼女は夢で踊る」が19年春公開予定。

映画祭 わかもの映画祭 ~広島の若者たちの「今」を残そうプロジェクト~

ヤングフェスタ2019で「広島わかもの映画祭」が初開催されます。青少年センター開館(昭和41年)当時の貴重な記録映像を使った映画作品をはじめ、広島の若者たちが制作した自主映画の上映のほか、太鼓の演奏やダンスのパフォーマンスなど華やかな映画祭。時川英之監督による講評、監督賞の発表もあり充実したプログラムです。

時 / 3月9日(土)11:30~18:00、10日(日)10:00~15:30

会 / 青少年センター ホール(広島市中区基町5-61)

料 / 入場無料

問 / 青少年センター TEL082-228-0447 読者プレゼント(P.15に詳細)



ひとこえ

映画を通じ ヒロシマの心を 世界に発信したい

広島発のユニークな映画作品で一躍注目を浴びている時川英之監督が、今年初開催の「わかもの映画祭」の審査員を務めます。広島を拠点にした活動や映画祭に寄せる思いなどをお伺いします。

■「鯉のはなシアター」への反響

広島復興のシンボルとして創設され、貧乏市民球団でも知恵を絞って生き残ってきたカープの知られざるエピソードを劇場映画化。市内2館で14週のロングラン上映となり、3月には再上映の予定です。全国各地に公開が広がっており、ヒロシマの精神をみなさんに知ってもらいたいし、もっともっと多くの方に観てもらいたいですね。今後も広島から平和や愛をテーマにした作品を発信していきたいと思います。

■広島を拠点にして

僕らのような仕事には落ち着いてモノを考えたり、書いたり、編集する時間がとても大事。広島はそれができる環境で、自然体で暮らしていると作品の題材も見つけやすい。ハンディは特に感じません。俳優やスタッフも必要であれば連れてくることができますし、作品が良ければ広がっていきますから。

■「わかもの映画祭」に期待すること

若い人の瑞々しい感受性からどんな作品が生まれるのか、とても楽しみです。私がカメラを回し始めたのは小学6年生の時。お年玉を貯めて買った録画機で編集し、中学の頃は友人達と作った短編映画を教室で上映したことも。20代には映画祭にもよく応募していました。自分が審査員の方々の指摘から多くを学んだように、今後の創作活動にプラスになるアドバイスができたかと思っています。

■映像クリエイターを目指す若者へ

今はスマホなど気軽に動画を撮影できて、便利な機能がついたツールが身近にあるだけに“発想勝負”の時代といえます。荒削りでも拙くてもいい、とりあえず撮ってみる。そして撮りながら考え、1つの作品を完成させてみる。いろんなことを自分で試してみることが大切で、それが“創る”ことにつながるんです。創造力やアイデアは「こういうことを表現したい」という思いを掘り下げ、試行錯誤する中で磨かれるのだと思います。